

卒業論文 2016 年度（平成 28 年度）

ネットワークを活用した
高解像度映像伝送システムの設計と実装

慶應義塾大学 環境情報学部

山中 勇成

徳田・村井・楠本・中村・高汐・バンミーター・植原・三次・中澤・武田
合同研究プロジェクト

2017 年 1 月

ネットワークを活用した 高解像度映像伝送システムの設計と実装

論文要旨

近年、現行のハイビジョン放送を超える超高繊細な画質による、4K・8K 映像の普及が世界中で加速している。また、日本でも東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向け、総務省が後押しをしている。

4K 映像の帯域は 2K 映像と比較すると約 4 倍、現行のハイビジョン放送と比較すると約 8 倍にもなり、伝送方法とそのコストが課題である。そのため、映像業界では、映像機器と比べて比較的安価なネットワークリソースを活用して伝送する、Video over IP 化が進んでいる。

本研究では、汎用的なビデオインターフェースである HDMI から、映像を IP パケット化し、非圧縮の 4K 映像を伝送するシステムを設計、実装し、ネットワーク活用した映像伝送システムについて、評価¹⁾を行う。

4K 映像キャプチャボード、10Gbps ネットワークインターフェースカードを備えた汎用的なコンピュータで実装したソフトウェアと、Xilinx の 7-Series FPGA ボードで実装したハードウェアの両方を実装した。

評価として、4K 非圧縮映像の伝送を行う既製品である PFU QG70、実装したソフトウェア、実装したハードウェアのそれぞれにおいて遅延、重さ、XXX を計測し、XXX という結果となった。

キーワード

4K, IP 伝送, 映像配信システム, FPGA

Abstract Of Bachelor's Thesis Academic Year 2016

Design and Implementation of Delivery System for High Resolution Video Utilizing Network

Summary

Eigo ga dekinai node Roma-ji de soreppoi hunniki wo daseruto iina.

Murippoi desu ne.

Write down your abstract here. Write down your abstract here. Write down your abstract here. Write down your abstract here. Write down your abstract here. Write down your abstract here.

Write down your abstract here. Write down your abstract here. Write down your abstract here. Write down your abstract here. Write down your abstract here. Write down your abstract here. Write down your abstract here. Write down your abstract here. Write down your abstract here. Write down your abstract here.

Write down your abstract here. Write down your abstract here.

Keywords

4K, Over IP, Video Streaming, FPGA

Bachelor of Arts in Environmental Information
Keio University

Yusei Yamanaka

目次

第1章	序論	1
1.1	本論文の背景	1
1.2	本論文が着目する課題	2
1.3	本論文の構成	2
1.4	本論文の目的	2
第2章	映像伝送システム	3
2.1	ビデオカメラ	3
2.2	ディスプレイ	3
2.3	インターレース	3
2.4	色空間	3
2.5	帯域	3
2.6	インターフェース	4
2.6.1	HDMI 1.4/2.0	4
2.7	伝送手法	4
2.8	まとめ	4
第3章	ネットワークを活用した映像伝送	5
3.1	仮説	5
3.1.1	Ethernet を活用するメリット	5
3.2	目的	5
3.3	構成	5
3.4	関連研究	5
第4章	システムの設計・実装	6
4.1	UoIP	6
4.2	システム構成	6
4.3	ソフトウェアによる実装	6
4.4	ハードウェアによる実装	6
4.4.1	FPGA の回路設計	6
第5章	評価	7
5.1	評価手法	7

5.2	計測	7
5.2.1	トラフィック	7
5.2.2	遅延	7
5.2.3	重量	7
5.3	考察	7
第 6 章	結論	8
6.1	本研究のまとめ	8
6.2	今後の課題と展望	8
	謝辞	9
	参考文献	10
付 録 A	ORF2015 での 100Gbps 回線を使用した実証実験	11
付 録 B	ORF2016 での実証実験	12

图 目 次

表 目 次

2.1 表の例	3
-------------------	---

第1章 序論

1.1 本論文の背景

近年、現行のハイビジョン放送を超える超高繊細な画質による、4K・8K 映像の普及が世界中で加速している。また、日本でも東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向け、総務省が 4K・8K 映像を後押しをしている。

現在の放送業界では、同軸ケーブルを使用する SDI という規格で映像を伝送する事が一般的である。また、ハイビジョン放送の制作では、1080i と呼ばれる有効走査線数 1080 本のインターレース方式が一般的である。現行のハイビジョンと比較すると、4K 映像の帯域は約 8 倍にもなり、伝送方法とそのコストが課題となっている。

SDI では 4K 映像の伝送を目的として、SMPTE ST-2081 および SMPTE ST-2082 により、6G-SDI と 12G-SDI が定められている。しかし、現行のハイビジョンで使用される HD-SDI と比較すると、高周波による減衰を少なくするため、より太くより短い同軸ケーブルを使用しなければならず、現場での扱いづらさが課題である。

そのため、近年では、映像機器と比べて比較的安価なネットワークリソースを活用して伝送する、Video over IP 化が進んでいる。SDI の伝送と比較して、IP 伝送には次のようなメリットがある。

- 1 本のケーブルで複数や双方向の映像が可能
同軸ケーブルとは異なり、双方向での通信が可能なため、双方向の映像の伝送が 1 本のケーブルで可能である。SDI では、単一の映像伝送を目的としているが、IP 伝送では帯域が許す限り複数の映像が伝送可能である。また、IP であるため、他のソフトウェアのデータなどの付加情報も可能である。
- 伝送スピードの向上
SDI では、一般的に銅線を使用した同軸ケーブルを使うため、高周波を扱う場合に限界がある。IP 伝送で用いられるケーブルでは、帯域では 10G や 100G、さらには 400G など高周波を扱うことが可能である。
- コストダウン
ネットワーク機器では、すでに映像業界よりも先に 10G や 400G など、高速化が進んでいるため、それらのリソースを活用することで映像機器に比べコストを飛躍的に抑えることが可能である。

1.2 本論文が着目する課題

Video over IP における、伝送規格は、SMPTE 2022 とソニーの NMI が主流となっているが、その他にも多くの企画が提唱され、IP を利用するメリットが得られるはずである。

1.3 本論文の構成

本論文における以降の構成は次のとおりである。

2 章では、3 章では、4 章では、5 章では、6 章では、

1.4 本論文の目的

本研究では、～

第2章 映像伝送システム

2.1 ビデオカメラ

2.2 ディスプレイ

2.3 インターレース

2.4 色空間

映像では一般的に、RGB や YUV, YCbCr, YPbPr といった色空間で表現される。色差成分を間引くことにより、

2.5 帯域

帯域は次のようになる。

表は次のように出力される（表 2.1）。

表 2.1: 表の例

解像度	フレームレート	色空間	ピクセルあたりのビット数	帯域
3840x2160	60P	RGB	X bit	XX Gbps
3840x2160	30P	RGB	X bit	XX Gbps
3840x2160	30P	RGB	X bit	XX Gbps
3840x2160	30P	YUV 444	X bit	XX Gbps
3840x2160	30P	YUV 422	X bit	XX Gbps
3840x2160	30P	YUV 420	X bit	XX Gbps
1920x1080	60P	RGB	X bit	XX Gbps
1920x1080	60P	YUV	X bit	XX Gbps
1920x1080	30P	RGB	X bit	XX Gbps

2.6 インターフェース

2.6.1 HDMI 1.4/2.0

2.7 伝送手法

2.8 まとめ

第3章 ネットワークを活用した映像伝送

3.1 仮説

3.1.1 Ethernet を活用するメリット

3.2 目的

3.3 構成

3.4 関連研究

第4章 システムの設計・実装

4.1 UoIP

4.2 システム構成

4.3 ソフトウェアによる実装

4.4 ハードウェアによる実装

4.4.1 FPGA の回路設計

第5章 評価

5.1 評価手法

5.2 計測

5.2.1 トラフィック

5.2.2 遅延

5.2.3 重量

5.3 考察

第6章 結論

6.1 本研究のまとめ

6.2 今後の課題と展望

citation[1]

謝辞

本研究を進めるにあたり、ご指導いただきました慶應義塾大学 環境情報学部教授 村井純博士、同学部教授 中村修博士、同学部准教授 Rodney D. Van Meter III 博士、同学部准教授 植原啓介博士、同学部准教授 中澤仁博士、SFC 研究所 上席所員 (訪問) 齊藤賢爾博士に感謝致します。

研究について日頃からご指導頂きました政策・メディア研究科博士課程 松谷健史氏、政策・メディア研究科特任助教 空閑洋平氏、XXXXXX 徳差雄太氏に感謝致します。研究室に所属したばかりの頃から本研究に至るまで、特定の分野にこだわらない広い視点で何年生の時であっても妥協のない姿勢で向かい合い、絶えず多くのご指導をいただきました。本研究を卒業論文としてまとめることができたのも両氏のおかげです。重ねて感謝申し上げます。

本研究の評価に必要な伝送装置の助言、機材を運搬していただいた一般社団法人 Mozilla Japan 工藤紀篤博士に感謝いたします。評価に必要な伝送装置を借用させていただいた慶應義塾大学デジタルメディア・コンテンツ統合研究センターの皆様には感謝いたします。長期の間、開発、実験用に 4K カメラなどの機器を借用させていただいた慶應義塾大学湘南藤沢メディアセンターマルチメディアサービスの皆様には感謝いたします。

研究室を通じた生活の中で多くの示唆を与えてくれた XXXX 氏、および Arch 研究グループの皆様には感謝します。また、徳田・村井・楠本・中村・高汐・バンミーター・植原・三次・中澤・武田 合同研究プロジェクトの皆様には感謝致します。

最後に、私の研究を支えてくれた両親をはじめとする親族、多くの友人・知人に感謝し、謝辞と致します。

参考文献

- [1] ほげ山太郎, ほげ山次郎. ほげほげ理論の hci 分野への応用. ほげほげ学会論文誌, Vol. 31, No. 3, pp. 194–201, 2009.

付 録 A ORF2015 での 100Gbps 回線を使用した実証実験

付 録 B ORF2016 での実証実験